

## 造林学特論 (2 単位)

担当者氏名 上原 巖・菅原 泉

### ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

造林学とは、優れた遺伝的形質をもつ林木を更新させ、林地のもつ生産力をもっとも有効な形で持続的に利用して、森林を育成する方法を明らかにすることである。そのためには森林を取り巻く林木、立地、生物とそれらの相互関係についての広範な知識を総合的、多角的に理解、修得することが望まれる。また、森林における樹冠閉鎖の効果、樹種の組成、林冠の構造など、造林の基礎になる森林の構造について知識を修得し、森林の有する多面的機能を発揮させる自然状態あるいは人為による森林の更新方法、及び多様な森林の育成方法の技術について院生自らが進んで学び、講義における担当教員との論議を含めて習熟を図る。

### ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

<u>造 林</u>	<u>有用樹木</u>	<u>立地環境</u>	<u>物質生産</u>
<u>更新技術</u>	<u>森林生態系</u>	<u>育成技術</u>	<u>物質循環</u>

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	天然林と人工林 (第 1～3 週)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然林と人工林の樹種構成、林冠の構造、下層植生、根系の発達、遺伝的構造などの違いを修得する</li> <li>・立地環境や経営目標の違いに応じた更新方法を修得する</li> <li>・種子の取り扱いから、山出しに至るまでの育苗過程を修得する</li> <li>・種間競争に関する基礎的な知識を深めるとともに、適正な緩和技術を修得する</li> <li>・種内競争に関する基礎的な知識を深めるとともに、適正な緩和技術を修得する</li> <li>・複層林、混交林などの多様な人工林について、基礎的な知識を深め、適正な育成技術を修得する</li> </ul>	<p>造林学は生理・生態的、流通・経済的、さらに作業・労働的な視点も必要とし、その多面的な視点を総合的に捉えた技術が求められる。本特論は、その理論を考察、実践を行う場としたい。英文テキストを使用し、国内外の新知見も得ることを目的とする。</p>
2	森林の更新 (第 4～6 週)		
3	育苗 (第 7～8 週)		
4	種間競争 (第 9～10 週)		
5	種内競争 (第 11～12 週)		
6	多様な森林の育成 (第 13～15 週)		

### ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

担当教員より事前に周知する。

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

多様な森林の育成と管理/河原輝彦/東京農業大学出版会 (2001 年)

森の不思議を解き明かす/日本生態学会編/文一総合出版 (2008 年)

### ◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

教員と学生、学生同士の討論内容 (50 点)、レポート等の課題 (50 点)。

### ◆オフィスアワー

毎週月曜日の 16 時以降、造林学研究室で質問等を受け付ける

### ◆その他受講上の注意事項

自ら進んで学び、あるべき姿の森林の育成方法を提示するという態度で授業に臨むこと。